

【船橋市】校務 DX 計画

文部科学省より令和6年3月に公表された「「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果（確定値）」において、本市の達成している部分、課題となる部分を踏まえ以下の6項目について、次のように取り組んでいく。

1. 学校と保護者間のデジタル化について

児童生徒の欠席等の連絡やアンケート等の実施・集計については、クラウドサービスを用いて、保護者のモバイル端末等からの受付を行える環境を整えているため8割以上（一部半数以上）の学校が活用している。また、学校から保護者へ発信するお便り等についてもファイル添付機能のあるメール配信システムを導入しているため引き続き活用を推進していく。

保護者との日程調整にクラウドサービスを用いたり、説明会等をオンラインで実施したりしている学校が少数である。実態に応じて活用を推進できるように、実際に取り組んでいる学校の事例を紹介するなどの支援を行う。

2. 教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化について

デジタルドリル教材を導入し、1人1台端末で学べる環境を整備しているため、児童生徒の個に応じた学習に取り組むことができる。

アンケート等を行う際、クラウドサービスを用いて実施・集計をしている学校が増えてきている。定期テストのデジタル採点システムの導入については、検証校の様子やセキュリティポリシーを踏まえ、どのように進めればよいか関係各課と連携し研究を行い、推進していく。

3. 学校内の連絡のデジタル化について

教職員一人一人にメールアドレスが附与されており、クラウドサービスを活用することができる環境になっている。

職員会議等の資料をクラウド上で共有し、ペーパーレス化を進めている学校が増えている。また、職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを活用している学校も多くある。

校内研修等を対面またはオンラインのハイブリッドで実施することや、行事日程等の共有にクラウドサービスを活用することについての定着率は低いため、本市にあった方法を研究し、推進していく。

4.押印・FAX 等について

押印の慣習や FAX での連絡が現在もあることから、令和6年8月9日付け文部科学省事務連絡「学校との FAX でのやり取りの慣行・学校現場に関連する押印ルールの見直しについて」を基に、不必要な押印や FAX の使用がないように関係各課と研究を行い、推進していく。

5.教育委員会所管の業務のデジタル化について

教育委員会主催の研修を一部オンラインで行ったり、研修後のアンケートにクラウドサービスを用いて実施・集計を行ったりしている。

また、学校との事務手続きについて一部ペーパーレス化しているものもあるが、紙媒体で行っているものもあるため、関係各課と連携してペーパーレス化を進めていけるよう研究を行い、推進していく。

6.次世代校務デジタル化に向けた環境整備について

本市は、平成28年度より統合型校務支援システム（以下校務支援システム）を導入している。校務支援システム導入以前から校務を行っていた教職員へのアンケートでは、出席簿や通知表の作成等の機能を使うことで8割以上の教職員が業務軽減を感じている。

今後、校務支援システムの更新を控えているため、国の動向や現場の声を聞きながら、よりよいシステムの導入を研究していく。